

毎年一度、健康チェックをしませんか

～市民病院 看護の日フェスタ開催～

5月11日(水)、市民病院で看護の日フェスタが開催され、43人が参加しました。健康への監視を高め、病気の予防の大切さを実感してもらおうと毎年行われていて、身長・体重と体脂肪率、血圧・血糖、骨密度などの健康チェックコーナーと、栄養士や保健師との相談ブースが設けられました。この日参加した高山礼子さん(貝塚)は、「初めて参加しました。食事に気をつけて、もう少し体を引き締めようと思います」と話していました。



▲この日、有明高校の3年生7人が実習として参加していました。参加者と笑顔で言葉を交わしていました。

おいしいクレープつくったよ!

～つくってたべるおはなし会～

5月8日(日)、市立図書館で「つくってたべるおはなし会」が開催されました。絵本に出てくる食べ物をつくり、食べながらお話を聞くことで本に親しんでもらうと同時に、食育のきっかけになることを目的に毎年実施しています。今年は「ムギッポのまんぷくクレープ」(やすいすえこ作)のクレープが題材で、市内外から30人が参加しました。参加した保護者の一人は「普段は親子でゆつくり料理ができないので、楽しいですね」と話していました。



▲生クリームを泡立てて、果物やアーモンド、チョコレートと一緒にクレープに入れました。どんな作業のときもグループみんなで協力していました。

Proud!
Japan

がんばろう日本!
東日本大震災の復興をみんなで支えよう
～被災者と被災地を支援する荒尾市内の動き・県内のイベント～

Proud!
Japan

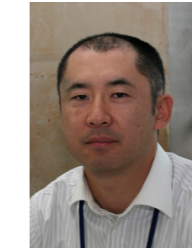
宮城県東松島市で活動 市職員を災害派遣しました

荒尾市では、熊本県からの要請を受け、県を通じて市職員を2人、宮城県東松島市に派遣しました。2人は5月6日(金)～12日(木)と、11日(水)～17日(火)の2回に分けて1人ずつ派遣し、期間中は移動日を除いてそれぞれ5日間、東松島市役所で義援金支給申請の受け付けや、仮設住宅申請受け付けの補助的作業などに従事しました。

また、早朝の業務開始前には、石巻市などの被災地を訪れ、震災による被害の状況を視察しました。現地について、2人に話を聞きました。



建築住宅課
沼田征樹
派遣期間
5月11日～17日



健康生活課
高村研一
派遣期間
5月6日～12日

被災地に派遣した職員

Proud!
Japan

真心をありがとうございます およそ1億200万円の義援金が 市に寄せられました

市において、東日本大震災のための義援金を募りましたところ、5月18日(水)現在で、1億259万3千424円の義援金が寄せられました。ご協力ありがとうございました。

これらは、市役所と関係施設の募金箱に寄せられたもの、福祉課の窓口で直接持参されたもの、市内の団体や企業から市長に託されたものの総額です。すべて日本赤十字社熊本支部を通じ、被災地に送ります。

市では引き続き義援金を受け付けています。被災地の復興には長い時間と多額の費用が必要です。今後とも温かいご支援をよろしくお願いいたします。

福祉課 ☎63・1406

Proud!
Japan

東日本大震災で被災し、荒尾 市に避難してきた皆さんへ

市では、東日本大震災の影響により本市に避難してきた人に対し、支援を行っています。支援の内容は避難状況により異なりますが、避難元からの情報などの提供も可能ですので、気軽にご相談ください。

また、避難してきた人をご存じの方は、情報提供のご協力をお願いします。問い合わせいき課 ☎63・1395

Proud!
Japan

がんばろう日本! 東日本大震災復興支援チャリ ティーバザールを開催します

県では、関係機関と連携し「がんばろう日本!熊本から元気を届けよう!」を合言葉に「東日本大震災復興支援チャリティーバザール」を開催します。県内経済を活性化して、熊本の元気を義援金として被災地に届けましょう。

- 日時 6月4日(土)、5日(日) 午前10時～午後6時(5日は午後5時)
- 会場 グランメッセ熊本 約180団体
- 内容
 - ・県産品(農林水産品、物産、工芸品など)の販売
 - ・被災地東北の物産・特産品販売
 - ・県出身著名人のチャリティーオークション
 - ・くまモン募金
 - ・被災地支援活動報告パネル展 など
 - ・そのほか、飲食ブース設置やステージイベントも予定しています。

●入場料 無料
●会場 熊本県もとブランド推進課
☎096・333・2133



▼東松島市役所は、建物に多少の亀裂が入った程度でした。復興に向けた思いが掲げられています。



震災から2カ月が経ちましたが、実際に被災地の復興の状況は、1%にも満たないと感じました。津波が来た場所とそうでない場所の被害に差が大きく、津波が来た場所は、通行のために道のがれきを除去しただけという場所もあります。

被災した人たちは現在、通常の生活を始めるのに必要な手続きをするため、市役所に訪れています。対応した人から「来てくれてありがとう」と、お礼の言葉をかけられることもありました。市役所を訪れる人は前に向かって進み始めた人ですが、中にはショックの大きさから立ち直れず、次の行動を起こすことができない人もいます。これからは、都市計画やまちづくりなど、専門的な支援が長期にわたって必要になると考えられます。私たちにできる支援は、震災を忘れず、募金などで長い期間被災地を支援していくことだと感じました。